

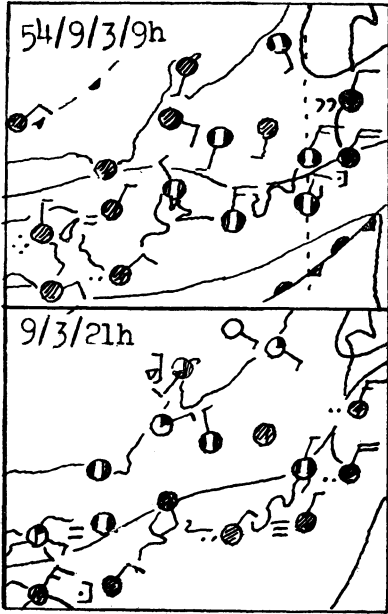
# 山雲の機構(8)

大井正一\*

## (噴流雲)

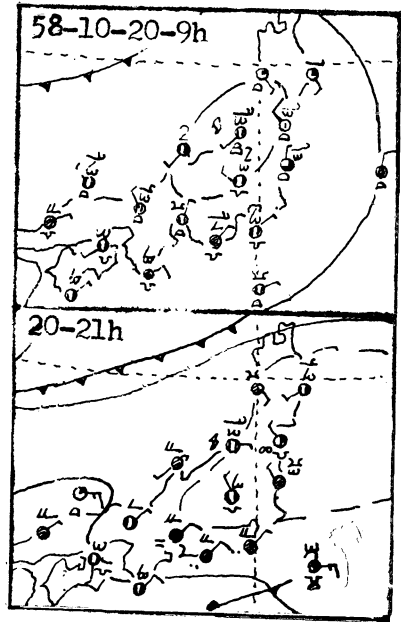
写真1は私が昭和29年9月3日11時頃大キレット最低鞍部にて北穂の方に向けて写したものである。この時は山本三郎氏と2人で8月30日に新宿を出発31日横尾泊、1日槍沢泊、2日肩の小屋泊と雨続きで、殊に2日の雨は寒かったので諦めていたのだが、3日思いがけなく快晴となったので朝は槍で遊び、9時頃出発した。そしてこの写真を撮った頃は何となく空模様がおかしくなり、すっかりあわてしまった。後から天気図を見れば、第1図の如く高压部で9時と21時の間に弱い寒冷前線が通過した事が判った。この写真を写して1時間後にはすっかり晴れてしまった。此の雲は右手滝谷側から非常な速さで吹き上げて涸沢側に忽ち消えて行った。これは明らか

写真2は国際電登山岳部TKDAC会員常泉浩氏が昭和33年10月20日7時頃三俣蓮華小屋より三俣蓮華岳に向う途中で撮影されたものである。此の雲の位置は、西鎌尾根の最低鞍部であり、写真1の位置は矢印で示して見たが、最低鞍部である点に於て気流的には同じ条件であり、雲の形もよく似て居り同じ機構を示しているものと考えられる。当日の天気図は第2図の如く小さな移動



第1図 (2mbおき)

に気流が大キレットを越える時に収斂してすぐ発散する機構を示している。富士山等では、この種の雲を形態的に流れ雲として観測しているが、この雲はその中でも特に著しい収斂発散を示しているのので、何か特に変種名をつけたい気がする。噴流雲とも名づけてはどうだろう。



第2図 (4mbおき)

高の中心であり、夜寒冷前線通過のため新雪となっている。第1図と似ている点は弱い移動高で全国的に曇や雨の所が多い。即ちこの様な雲が発生するためには山上は晴れていても大気は不安定なことが必要なのであろう。

結論として (1) 噴流雲は気流が高山の最低鞍部を越える時に強い収斂と発散する結果発生する。(2) 形は流れ雲に似ているが収斂発散が著るしく表わされている。(3) この二つの場合には弱い高压部で平地は曇や雨の所が多く、山の上だけが天気が良かった。内一つの場合には弱い寒冷前線の通過中であつた。猶写真を貸与されたTKDACの飯島好子氏に感謝する。(1960. 12. 22)

\* 気象庁高層課